



**学校経営方針（学力向上に関わる要点）**

◎主体的に学び、確かな学力の向上を図る教育の推進

- ・学年段階に応じて、学習の基礎・基本を身に付けさせる工夫・積み重ねができるようにする。
- ・体験活動を重視し、児童に学習の目的や課題を明確にもたせ、その解決を目指した学習ができるようにする。
- ・児童が考え判断し表現することを十分に経験させるとともに、指導者や児童相互で認め合う場を位置付け、協力して問題解決に取り組む。
- ・ICT（大型提示装置・実物投影機等）の活用を図る等、児童にとってより分かりやすい授業を目指す。

**各教科の指導の重点**

◎児童自らが学び、自らが考える教育の推進を図る。

- ・めあて学習を基本として、自らすすんで学習に取り組む態度の育成
- ・基礎・基本の定着
- ・思考力・表現力・判断力の育成
- ・児童相互にかかわり合いながら、めあてが達成できるような支援

**総合的な学習の時間の指導の重点**

- ・生活や体験の中から、自ら課題を設定し、すすんで計画を立てて追究することができるようにする。
- ・学習を振り返り、修正を加え、先の見通しをもって活動を進めることができるようにする。
- ・内容や目的に合ったまとめ方や表現ができるようにする。
- ・体験や交流を通して、多様な考え方や生き方があることを理解し、学んだことを生活に生かすことができるようにする。

本校における「確かな学力」  
知識・技能、学ぶ意欲、学び方、課題発見力、問題解決力、思考力、表現力、判断力

**今年度の重点**

各教科の学習を通して、「思考力」、「表現力」、「判断力」を高める。

◎ **学ぶ意欲**

一人一人の今できることを基に、楽しんだり、技能を高めたりするためのめあてをもてるようにして、児童自らが主体的に学習に取り組んでいけるようにする。

◎ **問題解決力・学び方**

児童一人一人がめあて達成のために必要な情報を、学習資料として与えられ、児童相互に確認や助言をし合いながら、主体的に学習できるようにする。

**道徳教育の指導の重点**

- ・集団の一員としての自覚をもち、思いやりや優しさなど人間性豊かな心をもつことができる。
- ・自他の生命を尊重し、健康で明るく活力ある生活を送ることができる。
- ・めあてに向かって、主体的に取り組む、最後まで根気よくやり通すことができる。

**特別活動の指導の重点**

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

**生活指導の重点**

◎深く考え、正しく判断する児童

- ・集団の中で自分がどのように行動したらよいか考え、判断できるようにする。
- ・相手の気持ちや立場を理解し、互いを認め合い、協力して行動できるようにする。
- ・自分の生活を振り返り、よりよくしていくようとする態度を育てる。

めあて達成に向けて主体的に活動していく過程で  
**思考力・表現力・判断力を高める**

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p><b>研究主題</b></p> <p>「自分の思いや考えを広げたり深めたりできる児童の育成～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して～」</p> <p>○主体的な学びの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組めるような課題設定の工夫</li> <li>・課題解決へ向けた見通しおよび振り返りの工夫</li> </ul> <p>○対話的な学びの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な対話の設定</li> </ul> <p>○深い学びの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科による見方・考え方を働かせて課題を解決する。</li> </ul>	<p>○授業時数を極力減らさず、研究授業の時間を確保するために、月1回の校内研究日を基本とし、小中一貫研修会で校内研の内容を行うなどの工夫をする。</p> <p>○放課後に個別指導の時間を設定し、授業中の個別指導に加えて、授業時間外にも個別指導を行えるようにする。</p> <p>○算数習熟度別少人数指導を充実させるため、専科教員を更にT2として配置し、個別指導の機会を増やす。</p>	<p>○全教員が新学習指導要領について研究した上で、授業を行い、教員一人一人が児童の確かな学力の育成に向けて、授業改善に取り組む。</p> <p>○小中一貫教育実践校の研究を生かし授業に取り入れる。</p> <p>○日常の授業観察では、指導案を作成して校内で公開し合い、教員が互いに学び合っ授業改善に生かす。</p>	<p>○ねらいに則して評価計画を作成し、個に応じた評価を行う。</p> <p>○指導者が適切な支援を行うとともに、児童相互にかかわりをもたせ、自分の取組を振り返らせる。</p> <p>○ノートや学習プリント等を基に、指導者がその時間の活動を評価するとともに、次時へ向けての支援計画を立てる。</p>	<p>○ホームページや学校だよりで研究授業の様子を伝えたり、学習で使ったワークシートに保護者の記入欄を設けたりして、家庭、地域への啓発をしていく。</p> <p>○地域コーディネーターを通じて地域の人材を活用できるようにする。</p> <p>○学校関係者評価を授業改善に生かす。</p> <p>○学力調査の結果、課題解決のための取組を明らかにし、実践する。</p>